

地方通信



北海道の道路愛護日の變更地方民から痛切に要望

九月二十四日秋季皇靈祭の佳き日を期して全道一齊に展開された道路愛護運動は、四十萬近い勤勞人員の動員によつて多大の成果を収めるに至つたが、當日各支廳毎に道廳より派遣した督勵班の報告書によると、道路愛護日の實施期日の變更方が全道各支廳毎に痛切に要望されてゐることが判明した。

即ち道路愛護日の秋季皇靈祭は農村では收穫期を目睫に控へて所謂農繁期の初期に當り、道路愛護よりも先づ農事といふ事

になり、一面この季節は丁度雨季で氣候的に道路工事、清掃に不適であるといふ二點がこの期日變更の原因で、道廳當局としてもこの點本春來から再検討されてゐる問題だけに地方民の要望に應へ、しかも同運動を效率的にする方策を探るものと思はれる。

而してこの變更期日についても農閑期で且つ春秋二回實施それも一日限りとせず、週間として一週間これを實施、勞力資材不足の折柄、作業指導者に簡易な道路改良修繕技術を習得せしめて地元民で道路の簡単な工事は處理する方法により一段と道路愛護精神、愛郷精神を涵養すべきであるとの意見が多く、冬季の除雪作業も道路愛護運

動の一翼に加へるべきだといふ道路愛護に對する道民の熱意ある要望が多く、今後の道路愛護運動實施方策に大きな示唆を與へるところがあつた。

長野縣下の村を擧げての更生祭

「守れ統後興せ故郷」を肝に銘じ、實踐躬行の一路を邁進して早くも丸六年かつての無頼の村怠惰の村手に負へぬ村の淺ましい言を完全に一擲して、第一次更生計畫を立て派に遣り塗げた長野縣の下伊那平谷村ではその間蓄へた豊かな基金を擁して第二更生計畫への第一歩をたくましく乗り出すに當り、十七日の神嘗祭を卜してうれしい更生祭を擧行した。昭和十一年第一次更生計畫へ發足するに當り「あらゆる郷土の更生向上と子孫の幸福のため正義に即し愛情と勇氣と努力に依り所期の目的貫徹に精進せんことを誓ひて神明の加護を受く」と鎮守の社頭に奏上して、一切の類廢的な娛樂を驅

逐し會合の席上から酒を逐つて村長を陣頭に全村一丸となり、朝五時に一齊起き出して更生の道を邁進して來たのであるが、更生祭の一日は全村愉快に浸つて酒もほんのちよつぱりながら配給され、各部落毎に地芝居や踊りなどの餘興が繰出して折柄の雨ではあつたが、會場の國民學校は和氣漲り踴躍的春風が漂つた。午後一時戸谷地方事務所長、縣農政課市川氏始め多數の來賓を迎へ、全村男女老幼相集ふ中で嚴かに第一次更生計畫達成記念式典が擧げられ、村松村長から過去六年間村の更生に盡力した人々を表彰し、また縣その他から表彰された事柄をいち／＼披露した村長は過去の苦闘を回顧して聲涙共に下る謝辭を述べ、「之れで明日からはたくましく勇敢に第二次計畫に發足させよう」と強調して感激的な場面を展開、戸谷所長等の祝辭があつて閉式慰安祝賀會に移り、夜を籠めて笑ひさんざめく聲が絶えなかつた。

長野縣一萬人出場の

道路愛護

長野縣岩村田土木出張所では、十月五日全部下二十七ヶ町村の料糞道路愛護會四十一團體人員一萬一千名を動員、秋期一齊道路作業を行ふ事に決定。

當日は大高所長の總指揮で所員全員もこの擧に参加國府縣道をはじめ、増産里道に至るまであまねく修復清掃作業を行ふわけで、特に縣からも三宅土木課長外係員臨席督勵する事になつてゐる。

なほ出勤團體中には青少年團女子部、處女會等の乙女部隊も参加、翼壯と共に早曉午前四時から曉天作業で開始午後四時まで終日豪華な奉仕を行ふ筈。

茨城縣下の交通事故防止

茨城縣では時局柄特に最近殷賑産業の躍進的發展に伴ひ一般旅客非常に増加し、列車もバスも満員の状況にあり、このため勢

ひ忌はしき交通事故もまた増加の傾向にあるので、縣では十一月一日から向ふ一ヶ月間交通安全期間となし、

△路上遊戯の制止△幼児の獨り歩き制止
△荷牛馬車、自動車の搭乘席以外乗車の取締△諸車無燈火の取締△自動車無免許運轉の取締△自動車運轉速度の取締△電車、自動車乗車制限

等を勵行せしめて、事故防止の徹底をはかると共に縣に交通事故審査會を設け、期間中の事故に就いて左の方法により採點し、自動車協會各班毎に成績優良なるものを表彰することにまつた。

△採點方法 1、事故に付負擔すべき點數
(イ) 死亡(三日以内死亡を含む) 百點
(ロ) 傷者六十點(ハ) 物件損壞見積百圓以上二十點(ニ) 前各號以外の事故十點
2、一事故にして數結果を生じたるときは結果毎に併算す。
3、他管内(縣外も含む)に於て發生したる事故は車輛所屬支部の負擔とす。

- 4、無免許運轉者の事故に對しては車籍支部は前記點數に更に百點を負擔す。
- 5、無免許にて運轉事故を惹起せざりしも發覺せし場合は車籍支部は七十點を負擔するものとす。
- 6、前項以外の事故に關する採點方法は狀況を參酌し審査會の決議を経て決定するものとす。

△成績順位は各班毎に各支部別に採算したるものを其の支部の總車輛數にて除したる商の價少なきもの及施設計畫の良好なるものを上位とす。

商の價同一の場合は車輛數多き支部を上位に優勝を決定す。

△審査 期間終了後一ヶ月以内に審査會を開催す審査會は協會長の指名したる者をして組織す。

- △表彰 1、各班毎に左により表彰す、一等優勝旗賞金五十圓、二等同三十圓、三等同二十圓、等外無事故同十圓
- 2、三年無事故支部に對しては賞金十圓

を授與す。

- 3、既に三年以上にして受賞せるものは以後三年を経過する場合に於て賞金二十圓を授與す。
- 4、優勝旗は一ケ年毎に之を返上するものとす。

△罰則 事故の如何に不拘隱蔽したるものは參加資格を失ふものとす。

鐵道隧道に生きる

四十六年

鐵道七十年周年記念日に當り、鐵道大臣賞を受けたる下關工事々務所の福井縣中野鐵吉翁は四十六年間の隧道工事に從事し、黙々として鐵道建設に一身をさし、生活信條を貫いて來た意志の人である。其の苦心談を聞くと「難工といはれた愛媛縣大洲、八幡濱間の夜晝隧道、山口、島根兩縣境の白井隧道はじめ、大小無慮數十本の隧道を掘つて來た隧道掘鑿陣の老練家であるが、同時に十人の子寶に恵まれ長男郁太郎

氏(四二)をはじめ、七人の男の子は全部揃つて何れも鐵道建設陣に父の志を繼いでゐるといふ稀な國策一家で、大東亞戰爭には一は軍屬として、他は兵隊として北の護りに送つてゐる。

輝かしい朗報を齎して下關弟子待出張所現場に訪へば、翁といふには餘りにも矍鑠壯者を凌ぐ潑刺たる氏は「別にお話するほどの事はありません」と謙虚な口調ながら逞しい過去の足跡をふり返りつつ、靜かに想ひ出を語るのであつた。

四十六ケ年といへば随分長い鐵道生活ですが、その間私は終始工事第一線現場に働いて來ました。私をはじめ郷里福井で鐵道工夫となつた頃は私鐵時代で、その後鐵道省に移管され、明治四十五年六月には米子建設事務所に轉勤、こゝでは昭和四年三月山口へ轉勤するまでの約二十ケ年間に主として隧道工事の建設に當り、島取縣の内海隧道ほか十數本の隧道を掘りましたが、米子驛ホームの橋脚工事などにも當り、山

口では白井隧道、飯井隧道、河内隧道とちよつと數へ切れんほどの土龍生活をやつてをります。なんといつても難工事だつのは四國の大洲、八幡濱間の夜晝隧道と山口縣の白井隧道工事で随分血のじむ苦勞を重ねましたが、忘れもせぬ明治三十八年夏、米子の日野川隧道では洪水のため九死に一生を得たこともあり、白井隧道では怪我をして二三日休んだことを覚えてをります。が、四十六年間を通じて私が役所を休んだことゝいへばこの時と昭和十二年關門トンネルで、第一期線工事で高所から顛落した時の二度位のものです。何しろ病氣といへばいつかトマトを喰つて腹を壊した時ぐらゐの無病息災、仕事さへしてをれば不幸も不満もなく愉快でならんのですよ。だから趣味はと問はれても仕事とお答へするぐらゐです。隧道は随分澤山掘つて來ましたが、いづれも同じやうなもので掘鑿の苦心談などと取立てゝ申上げるやうなものありません。まだまだこれから老軀に鞭打つ

て御奉公する元氣を持つてをります。が、鐵道建設生活を關門トンネルといふ世界に誇る國策工事で飾ることが出來たのは、愉快です。

兵庫縣裏日本開發の 拍車振興道路

兵庫縣では戰爭完遂の重要目標を確保する生産縣として飛躍發展せしめるため、縣當局では産業の樞軸線阪神間から播州新興地帯へと工場建設、河水統制、食糧の増産など凡ゆる角度から開發計畫を實行し、既に阪神間は大都市的様相を整へて飛躍し、

播州新興地帯も總工費七千八百萬圓の臨海工業地造成計畫も力強く第一步を踏出し着々と工事がすゝめられ、神戸、美藝郡、三木町、明石市を結ぶ三木、明石線、總工費一千三十五萬圓の神戸放射道路開設計畫もすゝみトンネル工事も行はれてゐる。阪神間、播州新興地帯の開發は今や計畫時代から實行期に飛躍してゐるが、縣當局では大

東亞戰完遂、東亞共榮圈建設の綜合的觀點に立脚し、重要地帯の分散計畫にそふため明年度豫算編成には、愈々多年の懸案で地元から強く要望されてゐる、北但を中心とする裏日本開發に相當積極的計畫を反映せしめることになり、從來地勢山間のために惠まれず、産業の振るはなかつた北但地方振興に主力をそゝぎ、人口増殖を中心とする人的資源の確保、資質向上、食糧増産の遂行、資源の開發利用、工場建設立地開發の整備を期することになつた。

北但地方振興は計畫としては着々とすゝめられ、市制施行に將來ある歩みを運んでゐる城崎郡豐岡町の工業的發展を目標とし、既に調査費三萬圓を計上して漁港津居山港の商港改修調査のため、同港から豐岡町に至る圓山川改修調査に着手し、縣港灣課技手の調査班によつて玄武洞までの調査は終り、近く豐岡町までの測量水深調査が行はれることになつてゐる。

調査完了、改修實施決定までには相當の

期間を要するものと見られてゐるが、調査は開發への第一歩である、北但振興道路開設についてには地元から

△城崎町、竹野を経て佐津に至る道路△豊岡町から竹野に至る道路△城崎町から港村を経て竹野に至る道路

の三線開設を競願し、結局縣當局への白紙一任に基いて土木部で調査費二萬二千圓で調査を行ひ、豊岡町を起點として江野坂線、城崎線、海岸線の三線開設の必要ありとの調査結果を得たが、その後地元から開設促進の要望あり、縣會議員團から北但海岸道路の建設促進を成田知事に要望してゐるが、縣當局では何れの線を選ぶかは未だ決定せず、北但地方の振興を促進するため

振興道路の開設計畫を具體化すべく準備をすゝめてゐるのは事實で、これが開設されれば、北但地方の資材物資はどじく利用され、豊岡町を中心とする開發も一層拍車をかけられ、都市計畫も促進されよう。

美方郡の春來峠改修も東京——鳥取縣廳

に至る二十號線道路の重要改修工事として明年度は峠の電光線十三ヶ所の改修に着手する模様である。春來峠は城崎郡温泉町から約三キロは既に改修されてゐるが、明年度は現在三米の道路幅員を六米とし、峠の勾配も緩和し、木炭その他重要資材搬出促進の圓滑を圖る。

以上北但振興計畫具體化については縣當局も非常に積極的な意圖を持つてゐるから北但地方の人々も惠まれ、その將來性に期待することが出来るだらう。

岡山縣の林道開設

林道林野駐在所管内作東二郡の昭和十七年度林道開設工事は、八ヶ町村で總延長九千三百四十七メートル、總工費四萬九千五百十八圓、ついで水害復舊工事五ヶ町村で延長三百一メートル、總工費二千九百圓である。この内既に大吉大崎の兩村は完成、全體を通じ三割程度の工事進捗振であるが明年二月末迄には全部完成する見込である

内譯左の如し。

- 西栗倉村延長一〇七メートル、幅員三メートル—工事費八四四〇圓、栗廣一八〇メートル—八〇〇圓、檜原一三四五メートル—七六六〇圓、植月一五五八メートル—九〇〇圓、林野一二三三メートル—四五一八圓、大吉五六〇メートル—一七〇〇圓、豊田一五五〇メートル—一五七〇〇圓、大崎八五一メートル—四〇〇〇圓、計九三四七メートル—四九、五一八圓△水害復舊—梶並一四一メートル、幅員三メートル—八〇〇圓、勝田三三メートル—五〇〇圓、土居四七メートル—七〇〇圓、栗廣五五メートル—四〇〇圓、河會二五メートル—五〇〇圓、合計三〇一メートル—二九〇〇圓。

鳥取縣に於て道路を護る馬車屋

鳥取縣岩美郡宇倍野成器馬車組合瀧村壯市さんほか十三名は、十三日今次災害で洗

掃されてゐた府縣道成器丹比停車場および大坪島取縣浦生島取縣區間約六〇、〇立方米に砂利の無償運搬奉仕を行ひ、通行人に好感を與へた。

徳島縣下道路愛護への

奉仕

徳島縣勝浦郡多家良村大字八多村民は、毎年の行事の一として、同村縣道全線五十餘町歩の道路の愛護強化作業を行つてゐるが、本年は十月九日、十日、十五日の三日間、延日數百五十日を奉仕一般運輸者に便宜をあたへた。

高知縣下の道路愛護に 熱汗をそそぐ

高知縣翼賛部落常會會員四千餘名を包擁する長岡郡本山町内會部落會隣組を動員し秋の道路愛護行事をこの程町内一齊にわたつて施行した。十六部落常會單位にそれぞれ地區別に常會長、區長、農實組長、壯年

團部落總務等を指導推進班として、老若男女が協和の美風に勤勞奉仕の花をさかせて解散、總延長十數里に上る道路が見違へるばかりの平坦面となつた。

二つの縣道を改修西

保と南志見に歡聲

能登外浦でこれが縣道かと驚くものが二つある、その一つは輪島西保線の全線とその二は輪島大谷線の南志見村字里より町野町字時國にいたる二つの縣道線である。

西保線は自轉車さへ通じぬ縣道であり里、時國間は路の形さへない砂原が縣道となつてゐる、今更いふまでもなく兩線の關係區民は路線改修を要望すること久しく西保村の如き期成同盟會を組織しあるひは土木輪島出張所の指導のもとに新設計による新設道路改修工事に奉仕するといふ熱意をさへ示してゐるほどである、かうした地元民の熱意が通じ今度兩線同時に着工することになり、縣の指令

によつて輪島土木出張所では過日來兩線と同時に實測に着手し年度内に着工することになつてゐるが、西保線は郡制廢止直前宇下山まで改修してゐるので陸所に自動車の待避所を設け幅員の狭いものは一部取擴げ更に昨年の設計に基いて大澤まで延長せんといふ計畫である。

試に同村の物産についてみるに米は二千三百石、麥類は千百石、甘藷七千六百貫、馬鈴薯五萬三千貫、木炭一萬五千俵、素材六千石といふ概算であり、此の物資は現在まで夏季は船便によつて輪島町へ搬出しその他の時期はすべて人の背にて運ばれてゐた、この工事の完成後はこれらの物資はすべてトラックによつて運ばれるばかりではなく道路が悪いためにお醫者さんを招くことの出来なかつた西保村も改修後はこの惱みも自然解消し村にエンジンの輕快な音を聞くといふ文化の惠澤に浴するやうになるわけで藤澤西保村長もこの工事については全面的な協力を言明してゐる程である。